

第1回 シンポジウム

ここちよさを伝える新しいものさしを考えよう

室内環境の良さを伝える指標作成に向けた意見交換会

申込はこちら



申込 URL は巻末にも記載しています

2025年12月22日（月） 17:00～19:00

オンライン開催【ZOOM ウェビナー】 参加無料

2025年4月から省エネ基準適合の全面義務化もはじまり、住宅・小規模非住宅建築物におけるエネルギー分野では、一次エネルギー消費量やBEI、外皮性能としてはU_A値や η_{AC} 値、制度としてはZEHやBELSが普及しつつあります。

一方で、熱・光環境といった室内環境の良さや、土地や相隣条件に起因する快適性が、住まい手にとって分かりやすい形ではまだ十分に評価されていません。

そこで、国立研究開発法人 建築研究所では「誰もがわかる快適な室内環境の新しいものさし」の構築を目指して、良質な室内環境の研究や設計に携わる3名の方をお招きし、現場で求められる【ここちよさの指標】とは何か、ご講演とパネルディスカッションを通して議論を深めて参ります。

シンポジウム終了後、アンケート形式で、皆様の考える【ここちよさの指標】についてのご意見をお寄せください。

プログラム

17:00～17:15 開会・主旨説明 三浦 尚志氏（国立研究開発法人 建築研究所）

本シンポジウム開催の狙いと参加者への室内環境指標に対するご意見のお願い

17:15～17:35 伊香賀 俊治氏（一般財団法人 住宅・建築SDGs推進センター）

子供から高齢者の健康を支える温熱・空気環境

居間、寝室、脱衣所等の室内温湿度、足元室温が子供から高齢者の睡眠、活動量、血压、疾病症状、生産性に及ぼす影響に関する研究成果に基づき、望ましい温熱・空気環境指標について考える。



17:35～17:55 三澤 文子氏（有限会社 エムズ建築設計事務所）

住まいの心地よさをどうつくるのか。～空間をつくる材料の重要性

「空間は材料と材料の間にある。」といったライトの言葉どおり、材料を見る、材料の匂いを嗅ぐ、材料を触るという諸行為からも材料が住む人に及ぼす影響は大きい。つまり材料の心地よさが住まいの心地よさに直結するのではないか。自然素材が人間の感覚に影響をあたえること、さらに内部と外部をつなぐ窓から見える景色の質が心地よさ（精神の安定）につながることを事例を通して伝えたい。



17:55～18:15 佐藤 欣裕氏（有限会社 もるくす建築社）

包容力のある建築環境を目指して

効率を考えることはとても大切ですが、おおらかさを無くすと窮屈な建築になり兼ねないと思います。複雑さをなるべく排除したシンプルな躯体構成はとても効果的です。また厳しい気候であるからこそ自然共生を今一度見直すべきだと考えています。



18:15～19:00 パネルディスカッション 講演者各位・三浦 尚志（進行）

申込 URL : https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_vO6MyqtQQs6fo5DqlAs-g

主 催 : 国立研究開発法人 建築研究所 環境研究グループ

お問合せ : 事務局 合同会社 TAKAO スタジオ 牧内 (makiuchi@takao-st.com)

